

# 論文の形式

寺脇 拓

論文の形式に決まったものはありません。ここではとりあえず、おかしくない形式を紹介しようと思います。

## 1. タイトル

1. タイトルは、簡潔でかつ論文の内容がわかるようなものにします。ポイントは「[タイトル]について検討した」、あるいは「[タイトル]をやった」といったものにすること。良い例、悪い例は次のとおり。

良い例	悪い例
リサイクル運動の社会的意義	リサイクル運動について
日本の農業衰退は問題か？	農業問題
社会福祉政策の国際比較	社会福祉政策とは

## 2. 論文の構成

1. 論文の構成は、大きいものから、部 (part)、章 (chapter)、節 (section)、小節あるいは項 (subsection) となります。通常、10 ページぐらいのものなら章立てをせず、節立てから始めます。20~50 ページクラスになれば、章立てをするのが普通です。10~20 ページであれば、書く人の判断によります。
2. 章立ての場合、次のようになります。

第 2 章 琵琶湖の環境問題
2.1 移入種による生態系破壊
1) 移入種とは

3. 節立ての場合は、次のようになります。節は、「第 2 節」としても構いません。

2 琵琶湖の環境問題
2.1 移入種による生態系破壊
1) 移入種とは

(以下では章立てを例に話を続けます)

## 3. 課題と方法

1. 第 1 章では、論文の課題と分析の方法を書きます。但し、課題と方法を書いた章を「序章」とし、その次の章から「第 1 章」としても構いません。
2. この第 1 章の流れはおおよそ次のとおり。
  - 1) まず、論文の背景にある大きな流れ、あるいは大雑把な現状を述べます。段落ができるくらいの分量があったほうが良いです。

近年、日本の農業は衰退の一途をたどっている。農業就業者数は…
--------------------------------

- 2) 次に、現在どのようなことが問題になっているかを述べます。

しかし、こうした農業の衰退は、里山と呼ばれる豊かな自然環境を失うことになり、そこでの生態系の破壊が問題になっている。例えば…
--

- 3) そして、この論文でどういったことに取り組むのかを述べます。

そこで本研究では、琵琶湖周辺の里山を対象として、そこでの生態系の価値を評価し、その重要性を経済学的に明らかにすることに取り組む。

- 4) 続けて、研究の方法を述べます。

分析の方法としては、アンケート調査を採用する。琵琶湖周辺の住民を対象として里山に対する意識を調査し、その結果を統計学的に分析した上で、周辺住民がその生態系をどれほど評価しているかを明らかにする。

- 5) 最後に、段落を変えて、論文の流れを述べます。

本論文の構成は次のようである。第2章では、時系列データをもとに日本農業の推移について概観し、日本農業の現状についての歴史的な位置付けを明確にする。第3章では、現在の日本農業の現状と、他の先進国のそれとの比較を行い、その特殊性について述べる。第4章では、農業の生物多様性との関わりについて述べると共に、わが国の生物多様性国家戦略について紹介する。また、里山にたいする基本的な考え方を述べる。第5章では、アンケート調査の概要について述べる。第6章では、アンケート調査の集計結果を分析し、琵琶湖周辺の里山生態系に対する住民の意識を明らかにする。最後に第7章では、結論と今後の課題を述べる。

#### 4. 結論と今後の課題

- 最後の章では、この論文で明らかになったことと、残された今後の課題を書きます。
- 課題と方法を書いた章を「序章」とした場合、最後の章は「終章」とするのが普通です。
- この章は、基本的に第1章と対応するよう書かねばなりません。
- この最後の章の流れはおおよそ次のとおり。
  - 1) 研究の課題と方法についてもう一度簡単に述べます。ほとんど第1章の繰り返しになっても構いません。

本研究では、アンケート調査により、琵琶湖周辺の里山生態系の価値を評価することに取り組んだ。

- 2) これまでの章で述べた分析結果をまとめるような感じで、論文の主要な研究結果、および結論を述べます。

本アンケート調査結果により、琵琶湖周辺住民は、里山生態系を高く評価しており、湖南地方の住民については、全体の80.4%が「保全すべき」であるという意向をもっていることが明らかとなった。また…（中略）。以上のことから、里山生態系は、景観、レクリエーション、教育環境などの様々な面で周辺住民にとって高く評価されているものであり、こうした意向を考慮して、今後の農業・環境政策を進めていくことが重要だといえる。

- 3) 最後に今後の課題を述べます。

本研究により、里山生態系に対する周辺住民の高い評価が明らかとなったが、その保全に向けての具体的な方策については明らかになっていない。里山生態系はそれ自身貴重な自然環境だといえるが、その保全は継続的な農業によって初めて達成されるものである。それは、現状では農家の私的な意思決定に依存するものであり、ここに里山生態系保全の難しさがある。今後は、こういった保全政策を進めることが効率的で、かつ現実的かについて検討していきたい。

#### 5. 引用文献

1. 引用文献は、次のような形式で、最後にまとめて書きます。
  - 1) 日本語の本  
名前（出版年）『タイトル』、出版社。

寺脇拓 (2002) 『農業の環境評価分析』, 勁草書房.

2) 日本語の論文

名前 (出版年) 「論文タイトル」『雑誌タイトル』 巻号, ページ番号.

寺脇拓 (2001) 「農業関連公共事業の便益関数移転」『農業経済研究』第 71 巻第 4 号, pp.179~187.

注意① 複数ページに渡る場合, 「pp.」と表記し, 1 ページだけの場合, 「p.」と表記する.

3) 日本語の本の一章

名前 (出版年) 「論文タイトル」『本のタイトル (編者名)』, 出版社, ページ番号.

寺脇拓 (1999) 「流域水環境の生物多様性の経済評価」『環境評価ワークショップ (鷲田豊明・栗山浩一・竹内憲司編)』, 築地書館, pp.76~90.

注意① このように一つの文献が二行に渡る場合は, 二行目に少しインデントをつけます.

注意② 著者が複数の場合は, 「・」でつなぎます.

注意③ 編者の場合は「…編」編著者の場合は, 「…編著」とかいてください.

4) 英語の本

名前 (出版年) タイトル, 出版社.

Greene, W. H. (1999) *Econometric Analysis: 4th ed*, Prentice Hall.

5) 英語の論文

名前 (出版年) 論文タイトル, 雑誌タイトル, 巻, ページ番号.

Hanley, N., C.Spash, and L.Walker (1995) Problems in Valuing the Benefits of Biodiversity Protection, *Environmental and Resource Economics*, Vol.5, pp.249~272.

注意① 著者が二人の場合は, 「A and B」, 四人の場合は, 「A, B, C, and D」とかきます.

2. 文献を並べる順番は, 論文に登場する順か, 著者のアルファベット順に並べてください.

**引用文献**

…

Greene, W. H. (1999) *Econometric Analysis: 4th ed*, Prentice Hall.

Hanley, N., C.Spash, and L.Walker (1995) Problems in Valuing the Benefits of Biodiversity Protection, *Environmental and Resource Economics*, Vol.5, pp.249~272.

寺脇拓 (1999) 「流域水環境の生物多様性の経済評価」『環境評価ワークショップ (鷲田豊明・栗山浩一・竹内憲司編)』, 築地書館, pp.76~90.

寺脇拓 (2001) 「農業関連公共事業の便益関数移転」『農業経済研究』第 71 巻第 4 号, pp.179~187.

寺脇拓 (2002) 『農業の環境評価分析』, 勁草書房.

…

注意① 同じ著者の場合, 年度順に並べてください.

3. 後述しますが, 新聞記事, ホームページからの引用は, 注の中で書いてください.

4. 本文中では, 「名前 (出版年)」のように引用します.

… こうした便益関数移転については, 寺脇(2001)で分析されている.

6. 注

1. 注は, 本文中では, 次のように表記します.

… 近年こうした里山生態系の重要性が見直されている<sup>9)</sup>.

2. そしてその内容を, 文章末で, 次のようにかいてください.

9) ここでの里山生態系についての説明は, 寺脇(1999)を参考にした.

3. 注は、本文の最後と、引用文献との間にまとめて書いてください。
4. 新聞記事、ホームページからの引用は、注の中で書いてください。

**注**

- 1) NOAA ガイドラインについては、栗山(1998)pp.88～101 を参照されたい。
- 2) 日本経済新聞朝刊(2000年12月10日)より引用。
- 3) 淡海環境保全財団のホームページ (<http://www.biwa.ne.jp/~ohmi9/>) に詳しい説明がある。
- 4) ここでの説明は、鷲田(1999)pp.104～115, 鷲田・栗山・竹内(1999)pp.15～30 を要約した。  
...

**7. 図表**

1. 表タイトルは、表の上に、図タイトルは、図の下に書きます。
2. 図表番号は、「(章番号).(章の中で登場した順)」といった形式で書きます。例えば、第2章で初めて出てくる表は「表 2.1」となり、第2章で初めて出てくる図は「図 2.1」となります。
3. 出典があれば、図表の下に書きます。注がある場合も同様です。

**表 2.1 農林業の公益的機能の分類**

	機能の大分類	小分類	効果の帰属者
内部経済	農林産物生産	安全農産物安定供給	農産物の消費者
	所得・資産形成	農家所得形成 地域雇用派生 資産維持	農家 雇用された地域住民 農家
外部経済	食糧安全保障	食糧安全保障	国民
	環境保全	国土・環境保全	国民, 地域住民
		居住環境保全	地域住民
		生物資源保存	人類, 国民
	緑資源・オープンスペース提供	景観保全	地域住民, 訪問者
		憩い・安らぎ提供	地域住民, 訪問者
保健・休養	レクリエーション空間提供	地域住民, 訪問者	
教育	自然・情操教育環境提供	地域住民, 訪問者	
	伝統文化維持		国民, 地域住民, 訪問者

出典：嘉田・浅野・新保(1995)p.20 より転載。

